

自民党議員連盟「日本の安全な麻酔・周術期医療を考える会」

総会のご案内

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、「日本の安全な麻酔・周術期医療を考える会」の総会を下記の通り、開催することと致しました。

ご多用とは存じますが、是非ともご出席を賜りたく、ご案内申し上げます。

記

日 時 令和4年10月18日(火)11時00分～

場 所 衆議院第二議員会館 地下1階 第二会議室

- 議 題
- ①「働き方改革について」
公益社団法人日本麻酔科学会
山陰 道明 理事長
 - ②「医師の働き方改革による懸念」
信州大学医学部附属病院
川真田 樹人 病院長
 - ③厚生労働省、文部科学省よりご説明
 - ④その他

以上

開催報告

自民党議員連盟「日本の安全な麻酔・周術期医療を考える会」の第5回総会が、令和4年10月18日(火)に、衆議院第二議員会館第二会議室で行われた。

今回は、2024年4月から実施される「医師の働き方改革」をテーマに、今枝議員の司会の下、武田良太議員の挨拶の後に、山蔭道明日本麻酔科学会理事長から「働き方改革について」、川真田樹人信州大学付属病院長より「医師の働き方改革による懸念」と題して話を頂いた。

山蔭理事長よりは、勤務医の収入は開業医の半分ほどで、大学からの収入はその6割程度で、残りは外勤による収入であり、働き方改革の実施により外勤収入が減るとなると大学勤務者の減少を招くことになる。麻酔科医には開業の形態がなくほぼ全員が勤務医であり、大学を離れてフリーランスに移行することが懸念されている。大学の人材不足は、高度医療・救急集中医療や研究の低迷につながるようになる。川真田院長よりは、週1日研究日、週1日外勤が一般的な大学医師の勤務状況であるが、これらが労働時間にカウントされると研究活動が制限されて研究の低迷や、収入源により医師が離れていくであろう。裁量労働制などの仕組みの導入が出来ないか。また、地方からフリーターとして働きやすい都市へ医師が移動し、地域格差の加速が起こる可能性を指摘した。

文科省から高等教育局医学教育課大学病院支援室室長島居剛志氏、厚労省より医政局医事課 坪井宏徳氏、佐々木康輔氏がそれぞれ現在の医師の働き方改革についての立場が説明された。

その後、三ツ林裕巳議員、島村 大議員、松本 尚議員、若林洋平議員などから以下の質問が出された。

- ・新研修医制度で、大学で研究する人が減り、地方の医療が崩壊して、今回また働き方改革で追い打ちをかけることになる。特に新型コロナで臨床が急がしくえ論文を書けていない状況となっている。
- ・厚労省に、医師数を増やす予定はないのか、研修制度の見直しは行う予定はないのか。
- ・裁量労働制の検討はできないのか、麻酔科の外勤は麻酔をかけに行くわけなので、寝当直に出かけるのとは異なっているため、宿日直許可性が意味をなさない。
- ・大学の特殊性を考えると、別扱いが必要ではないか。
- ・良くしようとして行う働き方改革が、医療現場を悪化させるのでは本末転倒である。
- ・今から問題点に対して準備を始めるべきで、5年ほど経ってそれから考えるのでは遅い。

山蔭理事長より、北海道では周産期医療を守るために1週間交代で勤務しているので宿日直許可の要件に当てはまらないとの回答がなされた。

厚労省よりは、麻酔科医の数は伸びているし、需給計算では2029年には足りる計算となっている。また、裁量労働制は研究業務が対象である。外勤については、裁量労働制で契約しているのは大学病院であって、外勤は別の契約となる。裁量労働は一般の法律の下で行われるので、時間外の上限が720時間となる。などが回答された。

趣旨が十分に理解され、しっかりとした議論がなされたことに感謝いたします。

議員出席 28 名（内代理 12 名）、日本麻酔科医会連合 39 名（内企業 3 名）

麻酔科議連出欠リスト

(衆議院第一)				(衆議院第二)				(参議院)					
		出	欠	代理			出	欠	代理		参	欠	代理
中川 郁子	309	○			伊藤 信太郎	205				羽生田 俊	319		○
宗清 皇一	310				鷲尾 英一郎	208			○	星 北斗	322	○	
牧島 かれん	322				高木 宏壽	217				小川 克巳	405		
和田 義明	410			○	工藤 彰三	218			○	武見 敬三	413		
野中 厚	419				中野 英幸	220	○			島村 大	415	○	
今枝 宗一郎	422	○			国光 あやの	304				自見 はなこ	504		○
逢沢 一郎	505	○			橋本 岳	306				宮島 喜文	601		
あべ 俊子	514				中村 裕之	406	○			舞立 昇治	603		
宮内 秀樹	604	○			堀内 詔子	407				三宅 伸吾	604		
武田 良太	610	○			石破 茂	515				藤井 一博	605	○	
山際 大志郎	613				三ツ林 裕巳	522	○		○	若林 洋平	715	○	
大岡 敏孝	619				宮内 秀樹	604				古川 俊治	718		○
伊東 良孝	623	○			柿沢 未途	611				長峯 誠	802		
遠藤 利明	703				新谷 正義	805	○			丸川 珠代	902		
加藤 鮎子	705				谷 公一	810				石田 昌宏	1101		
松本 剛明	707				山田 美樹	917				江島 潔	1103		
御法川 信英	901			○	中曾根 康隆	923				関口 晶一	1104		
田村 憲久	902				小田原 潔	1007				古賀 友一郎	1206		
勝俣 考明	920				武部 新	1010	○			比嘉 奈津美	1221		
亀岡 偉民	1006			○	桜田 義孝	1117							
松本 尚	1009	○			尾身 朝子	1201							
義家 ひろゆき	1204				萩生田 光一	1205			○				
小島 敏文	1206				高階 恵美子	1208							
					鈴木 隼人	1215							

2022.10.18	
本人出席16名	合計28名
代理出席12名	



左から武田代表理事、小坂橋副代表理事、山蔭日本麻酔科学会理事長、信州大学医学部附属病院川真田病院長、森田事務局長、萬日本麻酔科学会副理事長、厚生労働省医政局坪井氏

